

第2回指標策定等協議会で頂いた御意見の指標への反映状況

	発言者	頂いた御意見	指標への反映状況
1	A 委員	素養の「自己教育力」という言葉には違和感があるので、「自己更新力」にすべきではないか。	「自己教育力」という言葉は、中教審の報告などで使われているため、理解されやすいと考えました。
2	B 委員	自己を俯瞰的に見る「メタ認知力」が必要である。「自己教育力」の欄に「自己理解を図り」という文言を入れたらどうか。	御意見の内容を踏まえて、自分を客観的に見つめるという意味で、「常に自分の姿を振り返り、」の文言を追加しました。
3	C 委員	教員へのメッセージ文には、教員に不足しているものがあるという否定的匂いを感じる。教員の現在の姿を肯定的にとらえて、「教員として『の資質を十分に発揮し、』」と追加したらどうか。	「教員として身に付けたい資質・能力」を「教員として磨いていきたい資質・能力」に修正しました。
4	D 委員	栄養教諭について、給食センター方式を採用している市町においては、基本的に給食センターに勤務している実態がある。 実情と合わない指標は現場が困ることになる。	栄養教諭は、学校における食育に関わる中核的立場にあるので、指標に書かれている役割を担ってほしいと考えております。
5	E 委員	校長版の「素養」に「包容力」という言葉を入れるとよい。	御意見のとおり、「素養」欄の「倫理観・人間性・行動力」の項目に「包容力を持ち」という文言を追加しました。
6	F 委員	愛知が求める教師像とキャリアステージの時間軸とが関連しているように見えるため、違和感がある。	両者は時間軸において関連はしていません。両者が関連していないことがわかるよう表現上の工夫をしました。

7	G 委員	「多様性への理解と教育支援」の第1ステージの「合理的配慮を重視した」を「考慮した」くらいの表現でいいのではないか。	御意見の趣旨を考慮して、「合理的配慮に基づいた」に修正しました。
8	H 委員	教員向けのメッセージ文についてであるが、教員のキャリアパスも一様ではなく、得意・不得意があるので、校長が包容力を持って個々の教員の良いところを活かして学校全体の力を向上させていくといった内容にできないか。	御意見の趣旨を生かすことができるよう、メッセージ文を追加修正しました。
9	I 委員	「多様性への理解と教育支援」の項目において、多様性をもっとポジティブにとらえる視点で表現できないか。	御意見の趣旨を取り入れて、「多様性を生かした教育活動を実践しようとする。」という文言を追加しました。
10	I 委員	「地域社会との連携・折衝」の項目において、地域にすでにある文化資産や人的資産を取り入れていくことについて触れた方がよい。	御意見の趣旨を取り入れて、「地域人材などの地域資源の活用」を「地域資源(ひと・もの・こと)の活用」修正しました。
11	I 委員	「外国人」ではなく「外国につながる子ども」という言葉が最近では主流である。	「外国人児童生徒」という言葉は、教育委員会では通常使われている言葉なので、そのままとさせていただきました。
12	J 委員	「生徒指導」の項目の第2ステージの「組織的・継続的に児童生徒に対応する」は「積極的に」に変え、第1ステージに持ってきてほしい。	御意見の趣旨を取り入れて、第1ステージに「組織的・継続的に児童生徒に対応する」という文言を移し、第2ステージには「方針や手だてを示しながら」の文言を追加しました。

13	J 委員	養護教諭の「保健室経営」の項目は専門性が高い。第2、第3ステージの内容を養護教諭ならではの内容にした方がいいのではないか。	御意見の趣旨を取り入れて、「保健室経営」の項目については、各ステージについて全体的に修正をしました。
14	K 委員	「児童生徒理解」の第1ステージの「心情を汲み取る」を「読み取る」という言葉にしたらどうか。	御意見の趣旨を取り入れて、「心情を捉える」に修正しました。
15	L 委員	「学習指導」の項目の着任時の姿に「児童生徒一人一人の学力に注視しつつ」という文言を入れたらどうか。	御意見の内容は「児童生徒理解」の項目に記載されており、「学習指導」は「児童生徒理解」を前提にしていますので、そのままとさせていただきました。
16	B 委員	「生徒指導」の第3ステージにいきなり「進路指導」が出てくる。着任時の姿にも「キャリア教育」ではなく「進路指導」を入れられないか。	着任時にはキャリア教育についての一般的理解を要求しているだけであり、進路指導は、キャリア教育の一部です。第3ステージの「進路指導」は助言の対象を明確にするために記載したものですので、そのままとさせていただきました。
17	B 委員	「多様性への理解と教育支援」の第3ステージに「自他の命」という言葉があるが、これは着任時の姿にも入れるべきではないか。	「自他の命」という文言は、「人権」という言葉の中に含まれていると考え、削除することとしました。
18	B 委員	校長版の「マネジメント力」の「企画・構想力」の「市民感覚」を「住民感覚」に変えてもらいたい。	この「市民感覚」という言葉は、一般社会の人々の感覚という広い意味で使っており、ある学校が存在する学区だけを意味するのではないという点で、原案を適当と考え、そのままとさせていただきました。

19	C 委員	「生徒指導」の項目の第1ステージの「社会的資質や行動力の向上」が分かりにくいので、文科省の定義に変えた方がよい。	御意見の趣旨を取り入れて、「社会的資質や行動力の向上などの「生き方教育」「キャリア教育」とも共通する視点をもって」に修正しました。
20	C 委員	「地域社会との連携・折衝」の着任時の姿に「教職公務員」とあるが、この言葉でいいか。	「教育公務員」に修正しました。
21	C 委員	校長版の「教職員理解・人材育成」の項目で、「管理」という言葉を使うことが必要ではないか。	校長版の指標の内容は、実質的に管理の内容になっているため、あえて管理という言葉を使う必要がないと考えました。
22	H 委員	「多様性への理解と教育支援」の項目の「理解」を「尊重」にできないか。	他の項目の「児童生徒理解」とのバランスから、「理解」の方に揃えました。
23	C 委員	各キャリアステージの「学級・担当教科等」、「学年・分掌等」、「学校全体」にカッコをつけられないか。	当該文言によりステージの範囲を限定するのは適当ではないと判断し、これらの文言は削除することとしました。